

“今年の研修は一味違う”

今年の新人研修やラダー別研修は、患者体験や皆で事例を話し合うという参加型を多く取り入れています。

今までは、講義を聞くという研修が多かったのですが、e-ラーニングを取り入れたので、講義はe-ラーニングで、集合研修では学んだ内容を実際の現場で活かすことができるようにと考えました。自分たちで話し合うことは、1、現場に即した話し合いができる 2、他の所属の職員と交流ができる 3、異なる現場の話聞くことで自分事として捉えることができる などの効果があると思います。

また、患者さまの体験を行うことで、疑似体験から他者視点を獲得できると思います。新人研修で相手への思いやりや、医療人としての心構えなどを学ぶことは、これからの生涯にわたり看護師として勤務していくための「根っこ」になると思います。

そして、教育委員たちが研修に入る前に、固い雰囲気をはぐし、自由に自分から学ぼうとする入口になれるように「アイスブレイキング」を工夫しています。研修であのような笑顔や笑いが出るのは素晴らしいです。ありがとうございます。



はんちゅーナーズ便り



今まで行ってきた研修の内容をお知らせします。

4月 新人研修

嚥下訓練 口腔ケア
看護技術(採血・注射技術)
安全なトランファー など



5月 新人研修

1ヶ月フォローアップ研修
メンタルヘルス
フィジカルアセスメント
薬品に対する知識 など



ラダー研修

チューターで語り合おう
看護研究の基礎

6月 新人研修

看護を考えるロールプレイ
夜勤業務 3ヶ月フォローアップ研修 など

ラダー研修

看護コミュニケーション
など



先輩からアドバイス



先輩の声は力になります



患者体験をしました



Vol.13

発行人
看護部長室

2025年4月採用看護職員募集中



阪奈中央病院の看護が良くわかるように、インターンシップ・病院見学などお待ちしておりますね



看護部長のひとりごと

前回に引き続き、ユマニチュードの4つの柱について一つずつ触れてみたいと思います。今回は「話す技術」についてお伝えしてみたいと思います。ケアをする時には「じっとしててください」「すぐ終わります」などの言葉を発しがちですが、このような言葉にはそんなつもりはなくても「私はあなたに命令しています」「あなたにとって不快なことを行なっています」というメッセージが含まれてしまっています。これでは相手に優しさを届けることはできません。「話す」ときも仕事のための「話す」ことだけではなく、相手のことを大切に思っていると伝えるための技術を用います。低めの声は「安定した関係」を、大きすぎない声は「穏やかな状況」を、前向きな言葉を選ぶことで「心地よい状態」を実現することができます。相手から返事がない時には、私たちは次第に黙ってしまいます。無言の状況は「あなたは存在していない」と伝える否定的メッセージとなるため、ケアの場に言葉をあふれさせる工夫として、ユマニチュードでは自分が行なっているケアの動きを前向きな言葉で実況する「オートフィードバック」という方法を用います。